



## カヤツリグサ(蚊帳吊草) <カヤツリグサ科・カヤツリグサ属>

田畑や、道端に普通に生え、高さ 20 釐~60 釐の一年草。茎は三角形の形で、茎の先に 3, 4 枚の葉が付き、そこから穂を出す。この葉は苞葉と呼ばれ、実際の葉は根元に 1~3 個付き、巾 2~3 釐。名は、茎を両端から 2 つに裂くと茎の中ほどで四角形ができ、ちょうど蚊帳を吊ったようなマスの形になることから。別名マスクサ。・・・▼初秋の候。空がグンと高く澄み渡り、黄金に色付いた田は刈り入れを迎え、麗らかな秋の景色が広がる。▼ススキや萩、深紅のヒガンバナが秋を彩り、カヤツリグサも足元で穂を揺らす。▼目立たないが、穂を付け線を描くカヤツリグサ科やイネ科の仲間たちも、風になびく姿は風情がありとても魅力的。▼カヤツリグサ科は茎の断面が三角で中が詰まった中実で、イネ科は茎が丸くて中空。他にも多くの違いがあるようだ。

~2022 年 9 月湯来町にて~